

1 年度のハイライト

<多様な教員人材育成修学プログラム（仮称）の導入>

本学と包括的な連携・協力に関する協定を締結した連携協定校に所属する学生で、教職への強い意志・意欲と適性を有し、卒業時に教育職員免許状の取得が見込まれる者に対して、小学校教員としての資質向上と本学大学院への効果的な接続を促す環境を提供することにより、学部及び大学院を見通して計画的に、得意の専門分野を持った高度専門職業人としての小学校教員を養成することを目的とする修学プログラムについて、令和3年度からの導入を決定した。

本プログラムは、本学の科目等履修生制度を利用して、連携協定校の3・4年次生の段階から本学の小学校教員免許科目の一部を受講し、本学大学院専門職学位課程に進学することにより、大学院2年間で小学校教諭一種免許状を取得するものである。また、本学大学院教育職員免許取得プログラム制度を活用するため、大学院3年間を使って他教科の中学校（高等学校）教員免許状の追加取得も可能とするものである。

今後、連携協定校の秋田公立美術大学と先行して実施方法等を検討していくこととしている。

<学校教育学部ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの改正>

令和3年度以降の学校教育学部のアドミッション・ポリシーについては、「高大接続システム改革会議『最終報告』」で「大学入学選抜は高等学校教育と大学教育とを接続し、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものに転換する。」とされていることから、「21世紀を生き抜くための能力+ α を備えた教員の養成」における5つの力（「教育実践力」を除く「基礎力」「思考力」「実践力」「学び続ける力」「人間力」）を、「人間力」を含めた「学力の3要素等」に評価項目を置き換えて整理・統合した上で、入学選抜の区分及び方法毎に、それぞれ評価する能力を表形式で示す内容に見直しを行った。

また、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーもこれに対応したものとなるよう見直しを行い、3ポリシーを一体的に取りまとめた。

<学校実習の実施>

専門職学位課程の規模拡大及び修士課程における学校実習の導入により、学校実習の履修対象者数は大幅に増加した。学校実習を地域で支えるため、平成30年度に設立した学校実習コンソーシアム上越により、本学と上越近隣4市の教育委員会及び校長会が協働し、延べ98校・機関と連携し、学校実習を実施した。

<教員就職率>

文部科学省が令和元年12月23日に発表した「国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の平成31年3月卒業者の就職状況」において、本学学部卒業者の教員就職率（大学院等への進学者及び保育士への就職者を除く。）は80.5%で、全国44大学・学部中、第3位であった。7年連続で5位以内を維持する結果となった。

<高等教育の修学支援新制度への対応>

令和2年4月から実施となる高等教育の修学支援新制度について、7月に機関要件の確認申請を行った結果、9月に機関要件を満たす大学として、文部科学省から認定された。修学支援の内容は、学部学生のうち、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生を対象とした「給付型奨学金の支給」と「授業料等減免」である。

<経済支援>

「令和元年台風第19号等」に係る被災学生の検定料、入学科、授業料の免除に実施に関する規程・申合せを整備し、被災学生に対して後期分の授業料免除を実施する体制を整えた。その結果、学部学生及び大学院生、合わせて4人の経済支援を行うことができた。

また、令和元年度から、博報財団が行っている給付型奨学金「博報教職育成奨学金制度」の奨学生推薦依頼大学となったことから、学部学生を学内選考し推薦するための関係規程を整備した。学内選考の結果、2名の学生を推薦し、両名とも奨学生に決定された。

<SOGIEに関する対応ガイドラインの策定>

令和元年11月13日の教育研究評議会で「上越教育大学における性の多様性（SOGIE）に対する基本理念」が承認され、この基本理念に沿って、総合学生支援室において、令和2年3月18日に「上越教育大学におけるSOGIEに関する対応ガイドライン」を策定した。本ガイドラインでは、将来教育者となる学生自身が学習者として学び活動する大学が、安全かつ安心できる環境であることを保障するために、特に性の多様性（SOGIE（ソジー）：sexual orientation, gender identity and gender expression）に関し、基本理念、基本方針及び具体的な対応を示している。

<入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の見直し>

令和3年度以降のアドミッション・ポリシーについて、「高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月31日 高大接続システム改革会議）」では、「大学入学者選抜は高等学校教育と大学教育とを接続し、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものに転換する。」とされていることから、本学の第3期中期目標に掲げる「21世紀を生き抜くための能力+ α を備えた教員の養成」における5つの力（「教育実践力」を除く「基礎力」「思考力」「実践力」「学び続ける力」「人間力」）を、「人間力」を含めた「学力の3要素等」に評価項目を置き換えて整理・統合した上で、入学者選抜の区分及び方法毎に、それぞれ評価する能力を表形式で示す内容に見直しを行った。

なお、令和3年度以降のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーは、令和2年5月にホームページで公表することとした。

<学部の令和3年度以降の入学者選抜>

学部の令和3年度以降のアドミッション・ポリシーを踏まえ、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を多面的・総合的に評価すること及び大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストの導入に伴い、学部の入学者選抜を行う上での具体的な事項について、令和2年3月に予告・第3報をホームページで公表した。

また、文部科学省から英語認定試験と記述式問題の導入見送り並びに大学入学共通テストの国語及び数学の問題構成や試験時間、配点などの取り扱いの公表を受け、既に公表済みの令和3年度入学者選抜の「予告・第1報」及び「予告・第2報」に関する予告内容の変更について、随時、ホームページで公表した。

<「21世紀を生き抜くための能力」に関するシリーズ本の刊行>

第3期中期目標期間における主要な目標の一つである「21世紀を生き抜くための能力+ α 」について、「上越教育大学からの提言」シリーズの続編として、本学教員から「人間力」をテーマとする論考を募り、「人間力」について考えるための基礎を形作り、『「人間力」を考えるー上越教育大学からの提言5ー』（令和2年3月刊行）として刊行した。